



令和4年

12月の園だより



すいこう認定こども園

自分の色で輝く子ども！



餅つきの由来は、奈良時代の記録によると「伊勢神宮などに鏡餅が備えられていた」と書かれています。餅を食べる習慣は、武家の年中行事が商家へと伝わり、商家から農家へ。農家では、神仏や農具に餅を供え、豊作と家内安全を祈ったそうです。

園では、8日にみ仏様にお供えするためにお餅つきをします。

今年も係の皆さんのお手伝いを頂いて、開催いたします。

ばんだ組さんからつきたてのお餅を丸めます。詳細については、後日プリントを配布します。



お手伝いをさせよう

子どもたちは、お手伝いが大好きです。「ありがとう」「助かったよ」という言葉を聞くと、自分が認められたと思うのでしょう。二度手間になると思われるかもしれませんが、その子にできるお手伝いを見つけ、役に立つ喜びをしっかりと味あわせてあげてください。今、年長さんは、給食後の床掃除を手伝ってくれる子どももいます。

各クラス、子どもたちと一緒に年末の大掃除を計画しています。



広島県内でも少しずつコロナ感染者が増える中、迷い悩みながらですが、園内で感染が広がっておらず、子どもたちがとっても楽しみにしておりましたので、「すいこうわくわくランド」を予定通り開催いたしました。幸い天候にも恵まれ、たくさんの方に来ていただきました。乳児さんも幼児さんも日頃遊んでいる姿を見ていただきながら、保護者の皆さんも一緒に楽しんでおられ、とてもほほえましく思いました。幼児さんの展示会場は、前日まで保育室としても使っていましたので、朝からごっこあそびをしたり、制作した物を保育者と一緒に飾ったりしながら過ごしていました。年少さんはその中でお昼寝もしていたので、「今日は、虫研究所で寝よう」とか、「ペットショップでカメさんと寝る」とか言いながら布団を敷いていました。生活とあそびの境がなく、毎日をワクワクした気持ちで過ごしていたので、当日への期待は最高だったことでしょう。日頃のあそびがそのまま作品展になり、取り組みから当日、そして今日もあそびは継続しています。日頃の様子そのまま見られたのは、作品展ばかりではなく、カレー売場で年長さんが、「カレー大盛り」とか「バク盛り」と注文する子どももいたようで、お手伝いのお母さん方が、大笑いをしていました。日頃、1階ホールで給食を食べているのですが、子どもたちはその日の献立、おなかのすき具合などで「大盛りがいい」とか「今日はちょっぴりがいい」などと食べる量を自分で伝えてくれています。わくわくランドの日も同じように注文したのでしょうか。「わくわくランド」は、特別な日なのですが、内容は日ごろと同じ。そんな様子がとても嬉しくなりました。

嬉しかったことはまだあります。アトリエが大好きで毎日アトリエに行ったら、廃材を使って制作をしたり、金槌を使って染物をしたりと好きなあそびを見つけて、集中している年長児の M ちゃん。わくわくランドで、ご家族で楽しく食事をされていたとき「アトリエで過ごすことによって、いままで見られなかった M ちゃんの素敵な所を発見できた。アトリエのおかげです。」と話されたので、「園でも M ちゃんは、自分が楽しむだけでなく、小さい友だちに道具の使い方を教えてあげたり、出来ないところを手伝ってあげるなど優しい姿も

たくさん見られますよ。」と言うと、大変喜んでくださいました。すいこうだけでなく、姉妹園を含めて初めての取り組みであるアトリエをどのように展開していけばいいのか、本当に子どもたちにとって楽しい空間になるのか、たくさんの不安があったのですが、子どもたちの遊んでいる姿を通して、少しでも保護者の方々にも関心を持っていただけるアトリエになったこと、さらに保護者の方がわが子の今まで見えなかったいいところを発見して下さるきっかけになっていることを何よりも嬉しく感じています。

仏説阿彌陀経の中に、お釈迦様のおられる極楽浄土の様子を「青い花はより青く、黄色い花はより黄色く、赤い花は赤く、白い花は白く」と、蓮の花で例えられ、「それぞれが自分の色で光り輝くことで、ご浄土は何とも言えないほど美しいところになっている」と言った一説があります。すいこうでも一人ひとりの良いところ、好きなことを見つけ、それをとことん楽しむことによって、さらに伸ばしていく。そういった関わりを大切にしています。子どもたちは、好きなことをしているときは、目をキラキラ輝かせ、集中して取り組んでいます。好きなことの楽しさを友だちに伝えようとしたり、楽しさを共有しようとする姿も見られます。そして、周りの友だちから「すごいね！」と褒めてもらったり、「楽しいね」と共感してもらうことで、少しずつ自分に自信が付いてきます。そういった経験をくり返して、子どもたちが自分色の輝きを放つようになり、すいこう認定こども園そのものが、安心して自分を十分表現できる居場所となっていくのだと思います。

一人ひとり、好きなこと得意なことは違い、それは、それぞれの子が持っている個性なのです。すいこうは、いつもその子が持っている個性が自分色できらりと光る場所でありたいと思っています。

これから寒さも厳しくなり、年の瀬という事であわただしい日々を過ごされることでしょうか。また、年末年始のコロナによる行動自粛は求めているようですので、帰省される方も多いのではと思います。どうぞ、感染対策などに気を配りながら、ご家族揃って楽しく新年を迎えられますことを願っています。 園長 上原玲子

子育てメッセージ

**ありのままの姿を受け入れることで
心が楽になり、
関わる事ができる！**

こうなって欲しい、ああなって欲しい…と親の願いはたくさんあるけれど、この子はこの子なんだと、ありのままを受け止めて、いいところをのばしてあげましょう。それが、親にとっても子どもにとっても一番幸せ。

(社) 全国私立保育園連盟
子育てメッセージより



《年越しに
食べるもの》

年越しそばは、江戸時代ごろから食べられていました。その由来については、さまざまな説があります。

- そばの実が三角形なので、邪気を払う
- そばは、細くて長いので長寿になるように

などがあります。また、地域によっては、年越しうどんや、さけやぶりの年取り魚を食べる風習があるそうです。